

【教育報告】

オンライン英語学習プログラムの成果と課題

島 山 均

The Effects and Issues of Introducing an Online English Learning Program

Hitoshi HATAKEYAMA

要 約

長崎純心大学英語情報学科では、2013（平成25）年度からスカイプを利用したマンツーマン英会話レッスンを提供している（株）レアジョブと提携し、1年生全員が前期（5月～7月）に、希望者は後期（10月～12月）に毎日25分間、フィリピン大学の学生を中心とする講師陣と英語でのコミュニケーションをオンライン上で行うことにより英語コミュニケーション力の向上に取り組んでいる。この取り組みは単なる「英語学習の手段」にとどまらず、英語学習への意欲向上の貴重な機会となり、さらに英語の国際的な通用性に気づき、異文化への興味・関心をも深めている。

本稿では、3年間にわたり継続中のオンライン英語学習プログラムの効果を、毎年実施している学生へのアンケート調査、レッスン受講時間とケンブリッジ英語検定試験のスコアとの関連等から検証し、オンライン英語学習プログラムが大学生の英語学習意欲向上にどのような影響をもたらしているかを考察する。

キーワード：オンライン英語学習、英語学習意欲、自己評価、客観評価

1. はじめに

長崎純心大学英語情報学科では1年生を対象に英語コミュニケーション力の向上と英語学習へ高い動機付けを図る事を目指して2013（平成25）年度からスカイプによるマンツーマン英語学習プログラムを導入している。本稿ではその実施方法、成果、そしてこれからの課題を報告する。

2. オンライン英語学習プログラムの概要と特徴

長崎純心大学英語情報学科はスカイプ（インターネット電話ソフト）によるオンライン英語学習プログラムを提供している（株）レアジョブ¹⁾と法人契約を結び、1年生全員、前期の3か月間（5月1日～7月31日）、スカイプを通してフィリピン人講師との1日25分間の英語コミュニ

ケーションのレッスンを受講している。

レッスンはパソコン、iPad、スマートフォンがあれば場所を問わず毎日午前6時から深夜午前1時まで受講できる。レッスンは習熟度別に生まれ、発音のチェックなどの初歩的なものから自由なテーマでのディスカッションという高度なものまで学習者のレベルやニーズに合わせて受講できる。

講師はフィリピン大学の学生および卒業生を中心に約4000名が登録されている（www.rarejob.com/about/tutor/）

このプログラムの英語教育上の利点は下記の5点にまとめることができる（姫野、2013）。

- (1) 学習者と講師が一对一で行うマンツーマンレッスンであるから、学習者は周囲に遠慮することなく、また時間的に自分が好きなだけ話しをすることができ、また疑問点があればその場で質問することができる。
- (2) レッソンの受講時間帯の制約がない。早朝でも深夜でもできる。
- (3) 通学がいらぬ。場所を問わない。自宅でも大学でもどこでもできる。
- (4) レッソンを100%自分用にカスタマイズできる。
- (5) 「話す」「聴く」「読む」「書く」の4技能をすべて学べる。

3．オンライン英語学習プログラム導入の目的

本科におけるオンライン英語学習プログラム導入の目的は下記の3点である。

- (1) 授業外で学習者が英語でコミュニケーションすることを通して学習者が英語を話すことに「慣れ」、英語を話すことを「楽しく」感じるようになり、それによって「英語を話す事」に対する「心理的抵抗感」を軽減する。
- (2) 「話す」「聴く」を中心とする英語でのコミュニケーション力の向上。
- (3) フィリピン人講師と英語でコミュニケーションすることで英語の国際的広がりを体験する。

4．年度ごとの実施方法

2013年度の導入開始後、毎年、実施方法を見直し、修正してきたが、基本的にこのプログラムの受講率を English Communication I（1年前期必修）の成績評価の一部（10%）に組み込んできた。また学生がきちんとレッスンを受けているかは管理者用モニターで週一度、筆者がチェックし、受講率の低い学生には受講を促すメールを出している。

(1) 2013（平成25）年度

4月上旬 オリエンテーション。レアジョブから担当者が来校し、使い方、レッスンの概要等を

説明してもらった。そして実際にフィリピン人講師とスカイプ上でデモレッスンを披露。

4月～9月末日 半年間のレッスン受講。1回25分を原則毎日、学生が都合の良い時間と場所で受講。4月から7月までの受講状況を English Communication I の成績評価に入れた。またレッスン内容の口頭での報告も授業の一部に入れた。

7月 学生に意見や感想を尋ねたアンケートを実施。また夏期休暇前に8月～9月の休暇中も受講するように強く薦めた。

9月 後期オリエンテーション時に10月以降の後期受講を継続したい学生は自己負担で継続受講を薦めた。

(2) 2014 (平成26) 年度

4月中旬 オリエンテーション。内容は前年度のオリエンテーションと同じ。前年度の反省からオリエンテーションは入学直後ではなく入学後2週間程度過ぎた時期に実施した。学生もパソコン等の使用に慣れ、スムーズにオリエンテーションが実施された。

5月～10月 半年間のレッスン受講。1回25分を原則毎日、学生が都合の良い時間と場所で受講させた。前年度の反省から受講期間を5月1日から10月31日までの半年間に変更した。後期最初の一か月間も受講可能にし、後期の授業に連動させた。前年度同様、5月から7月までの受講状況を English Communication I の成績評価に入れた。またレッスン内容の口頭での報告も授業の一部に入れた。

8月 学生に意見や感想を尋ねたアンケートを実施。夏期休暇前に8月～9月の休暇中も受講するように強く薦めた。

9月 後期オリエンテーションにて10月の受講は授業の成績評価には入れないが、受講を強く薦めた。その後も継続受講したい学生は自己負担で受講継続を薦めた。

(3) 2015 (平成27) と2016年 (平成28) 年度

4月下旬 オリエンテーション開催。内容は前年度のオリエンテーションと同じ。

5月～7月 3か月間のレッスン受講。1回25分を原則毎日、学生が都合の良い時間と場所で受講。前年度の反省から受講期間を5月1日から7月31日までの3か月間に変更し、8月と9月の夏休み期間は希望者が受講料自己負担でするようにした。

5月から7月までの受講状況を English Communication I の成績評価に入れた。またレッスン内容の口頭での報告を授業の一部に入れた。

10月～12月 希望者のみを対象とする無料受講期間(3か月間)。9月下旬に10名～15名程度の受講者希望者を募集。希望者多数の場合は前期の受講率、夏期休暇中の受講状況、5月に実施した Cambridge English Test の結果、English Seminar I の成績、前期の GPA 等を踏まえ、受講者を選抜した。

受講者は原則として毎日レッスンを受け、2週間に一度、筆者へのレッスンレポートの提出

を義務付け、12月の受講終了後、最終レポートを提出させた。

この期間に受講を申し出た学生数は2015年度が13名、2016年度が11名であった。

5. 年度毎の受講状況

受講率を年度ごとに比較してみる。ただし、前節で述べたようにこの4年間の実施時期が年度によって異なるので4年間で共通している5月1日から7月31日の3か月間のデータを基に報告する。

表1から読み取れる事は2013年度の学生は平均して2日に1回（一日おき）レッスンを受講していたが、それ以外の年度の学生は平均して2日から3日に1回、レッスンを受講していたという事である。全体として受講率の低下が見られる。

学生の受講状況をさらに詳しく見るために受講率50%以上（2日に1回は必ず受講した）の学生数とその全学生に占める割合と受講率20%以下（5日に1回、つまり週2回程度受講した）学生数とその全学生に占める割合を表2に示した。受講率50%以上の学生数とその割合は年度毎に減り、逆に受講率20%以下の学生数とその割合は年度毎に増加の傾向にある。

表1 平均受講率

年度	全体の平均受講率
2013	49%
2014	38%
2015	35%
2016	40%

表2 受講率50%以上と20%以下の学生数と学生全体に占める割合

年度	受講率50%以上学生数と学生全体に占める割合	受講率20%以下の学生数と学生全体に占める割合
2013	19名（56%）	5名（15%）
2014	14名（39%）	12名（33%）
2015	10名（30%）	17名（52%）
2016	14名（38%）	19名（51%）

しかしながら表3が示しているように受講率100%（3か月間毎日欠かさずに受講した）の学生数は年度ごとに増え、2013年度には存在しなかったが2016年度はその数は6名に及んだ。これはその学年の学生の15%に当たる。

表3 受講率100%の学生数と最大受講率・最低受講率

年度	受講率100%の学生数	最大受講率	最低受講率
2013	0名	85%	8%
2014	0名	99%	2%
2015	1名	100%	1%
2016	6名	100%	0%

このような受講率の変化は何を示しているのか。2013年度は全体の平均受講率は高かったが、毎日欠かさず受講した学生は存在せず、最高受講率は86%であった。つまり極端に熱心な学生もいなかったが、逆に極めて不熱心な学生もいなく、全体として良く取り組んでいたということが

推察できる。しかし、2016年度は全体として見ると、熱心に取り組む学生は減ってきているものの、受講率100%の学生数の増加が示しているように、極めて熱心に取り組んでいる学生数は増加傾向にある。これは大半の不熱心な学生と一部のかなり熱心な学生に分かれているという二極化現象と言ってもよい。この現象が学生の英語力の二極化現象を意味しているかどうかについては別に詳細に検討してみる必要がある。

以上の受講率は比較可能なそれぞれの年度の5月から7月までの3か月間のデータを基にしているが、2015年度から10月から12月までの3か月間は希望者のみの受講期間である。その期間の受講率は90%以上であり、極めて高い。これは毎日の受講を義務付けている事もあると同時に、そもそも英語学習への動機付けが高い学生が受講していると考えられる。

6. 学生の自己評価

学生はオンライン英語学習プログラムを受講することで自分の英語コミュニケーション力の向上や自分の英語の学習意欲についてどのように感じているのか。この点を明らかにするためにレッスンの開始後3か月を経過した時点で毎年アンケート調査を実施している。ここではその結果の概要を紹介する。ただし2013年度の質問項目とそれ以後の年度の質問項目が異なるので分析の対象は2014年度から2016年度の3年間の学生117名の回答である。

質問は前半4問が選択式で、後半5問が自由記述である。選択式の質問は次の4問である。

質問1. あなたは4月当初に比べ英語を話すことに「慣れてきた」と思いますか？

質問2. あなたは4月当初に比べ英語を話すことを「楽しい」と思うようになってきましたか？

質問3. あなたは4月当初に比べ自分の「英語で話す力は向上した」と思いますか？

質問4. 英語学習の方法としてこのオンライン英会話レッスンについてどう思います？

以下、結果の概要を説明する。

(1) 選択式質問の回答結果

図1 質問1「あなたは入学当初に比べ英語を話すことに「慣れた」と思いますか？」の回答

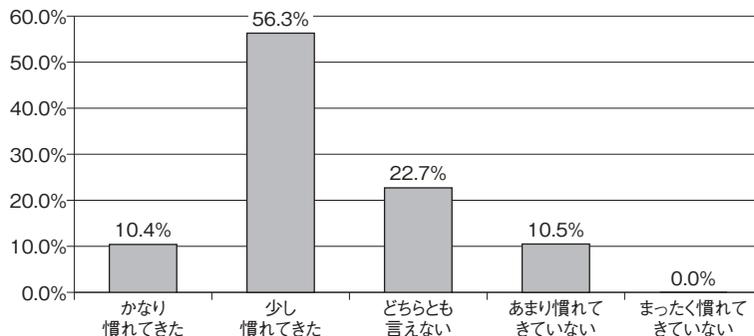


図1が示めているように「入学当初に比べ英語を話すことに慣れてきたか」という質問に対して「かなり慣れてきた」または「少し慣れてきた」と回答した学生は合わせて67%であった。つまり3分の2の学生が概ね入学前よりは英語でのコミュニケーションに慣れを感じている事が伺える。

図2 質問2「あなたは入学当初に比べ英語を話すことを「楽しい」と思うようになってきましたか？」の回答

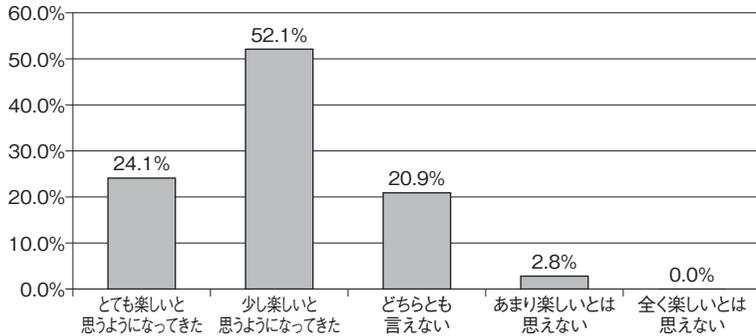
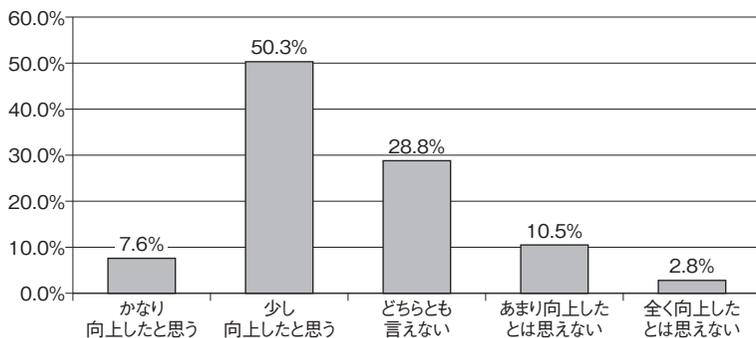


図2によれば「入学当初に比べて英語を話すことを「楽しい」と思うようになってきたか」という質問に対して「とても楽しい」または「少し楽しい」と回答した学生は合わせて約76%であった。つまり4分の3の学生が概ね入学前よりは英語でのコミュニケーションを楽しみを感じるようになってきている。逆に「あまり楽しいとは思えない」は2.8%、「全く楽しいとは思えない」は0%であった。

質問1と質問2の結果から見る限り、このオンライン英会話プログラム導入の目的の一つである「英語を話すことに「慣れ」、英語を話すことを「楽しく」感じるようになること」はある程度達成できていると考える。

図3 質問3「あなたは入学当初に比べ自分の「英語で話す力」は向上したと思いますか？」の回答

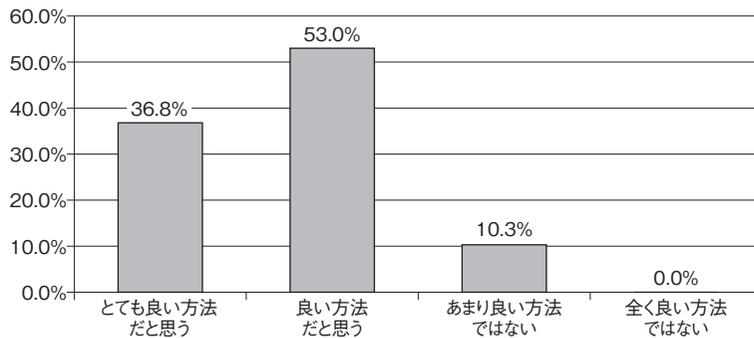


次に図3が表しているように「入学当初に比べ自分の「英語で話す力」は向上したと思うか」

という質問に対して「とても向上した」か「少し向上した」と回答した学生は合わせて約58%であった。半数以上の学生が概ね入学前よりは自分の英語でのコミュニケーション力は向上したと感じている。逆に「あまり向上したとは思えない」は10.5%、「全く向上したとは思えない」は2.8%であった。

最後に「英語学習の方法としてこのオンライン英会話レッスンについてどう思うか」と尋ねた。図4が示すようにこの質問に対して「とても良い方法」また「良い方法」と回答した学生は合わせて89.8%、およそ9割の学生が良い方法と評価している。

図4 質問4「英語学習の方法としてこのオンライン英会話レッスンについてどう思いますか？」の回答



(2) 記述式質問の代表的回答

以上のように選択式質問の結果は概ね良好であったが、この結果を補足するために記述式で同じ質問をした。こちらの回答もほとんどが肯定的な内容であった。以下、代表的な回答を紹介する。

質問1. 4月に比べ英語を話すことに「慣れてきた」と思いますか？

- ・とても慣れた。4月は自己紹介も正しい文法で伝えることもできなかった上に、情報量も少なく講師から「それで終わり?」「他には?」と言われることが何度もあり、レッスンの開始早々、心が折れそうになることも多かったが、半年以上継続したことで、正しく伝えることはできなくても積極的に話そうとする姿勢も身についたと思う。
- ・私は4月当初に比べ、英語を話すことに慣れてきたと実感しています。なぜかという私は入学して最初にネイティブの先生方々が英語であいさつをされたとき、何を話しているのか全く分からなかったからです。高校からの友人は聞き取れたと言っていてとても焦っていたのをよく覚えています。今では、自信をつけることができ、授業でも積極的に英語で発表することができるようになりました。

- ・慣れてきたと思います。当初は、質問されて答えるだけだった私が、少しでも疑問に思ったことは聞いて解決できるようになりました。一番実感できたのは、ケンブリッジ検定です。前期の一回目のときは、緊張してなかなか自分の思ったことを自信がなく言えずにいたけど、後期での2回目の検定は、緊張せずにリラックスして話すことができました。このとき、自分でも驚いたし、英語を話すことに慣れたと実感しました。
- ・4月当初は、高校卒業してから日が経っていた為に英語とあまり関わり無く過ごしていたことや、初めて外国人の先生の外国語のみの授業になかなかついていくことが出来ませんでした。その為、もどかしい思いする事が多々ありました。しかし、毎日レッスンを受けていたことで、次第と耳が慣れていきました。英語の授業を担当されている先生のお陰でもありますが、継続的に続けてきたことで段々と英語に慣れることが出来たのだと思います。
- ・慣れてきたと思います。4月はスカイプをかけるときにいつも緊張していました。しかし、レッスンを受けるにつれて自己紹介もすらすら言えるようになりました。また会話の始まりに必須の挨拶もその後の日常会話も緊張せずできるようになりました。

質問2 . 4月に比べ英語を話すことを「楽しい」と思うようになってきましたか？

- ・とても楽しいと思えるようになった。元々、英語は好きで外国人ともできるだけ交流をしたいと思っていたが聞き取れても話せないということばかりで何度も不甲斐なさを感じる事があった。しかしこのプログラムは個別レッスンで、一人きりで、しかも一対一で英語が話せるということで気楽にレッスンをうけることができた。特に、講師と趣味が同じであったりすると、とても盛り上がり楽しくむことができた。受けるにしたがって英語でコミュニケーションが取れていることの喜びや楽しみを実感することができた。
- ・私は4月に比べて英語を話すことが楽しくなりました。今では町でみかけた外国人の方と話して自分の力を試したいと思うようになりました。アルバイト先で日本語を話すことができない外国人が来たら、積極的に話すようにしています。
- ・楽しいと思うようになりました。勉強するためだけではなく異文化を知るということを意識してみると、日本との流行りが一致していることや、違いをみつけられ、笑いが絶えなくなり、話が盛り上がるようになりました。
- ・入学当初は英語の授業で、もどかしい思いをするばかりでした。楽しい授業でさえも、もっと英語を聞き取れたらいいのと思うばかりで楽しむことはあまり出来ていなかったです。しかし、新しい語句や言い回しを学んだり、日本語で習った文法などを英語で習ったりと、実際に外国人と話すことで自分の英語力が少しでも上がっていると感じるようになったことで、講師や大学の先生方と行う日常的な会話も授業もどちらも面白いと思うようになりました。今はとても楽しいです。
- ・とても楽しいです。もともと話すことは好きでしたが、上手く話せないことばかり気にしてい

てなかなか話せずにいました。しかし12月にある外国人に話しかけられたときにすぐ答えることができました。少ししか話す時間はなかったのですが、もっと話したかったという思いが強く残っています。これは本当にオンラインプログラムのおかげだと思います。

- ・実際に自分の英語で意見を言ったり、会話をしたことでその難しさというものを実感しましたが、スムーズに会話が進んだり、自分の考えが上手く言えたりすると、とてもうれしかったです。特に、自分の好きな音楽の話や共有したり、フィリピンのリゾート地や観光名所、文化について会話したときはとても楽しかったです。
- ・レッスンの中で普段友達と話すようなことを英語で外国の方とも楽しく話すことが出来るようになりました。そして、大学の授業でも分からないことがあったら自ら英語で質問することも出来るようになり、英語で話すことが楽しいと感じるようになってきました。

質問3 . 4月に比べ自分の英語で話す力は「向上した」と思いますか？

- ・開始当初と比べると向上したとは思いますがまだまだ努力が必要だと思う。自分の興味のあるテーマであれば割とスムーズに文を続けることができて、時事問題などになるとつまずくことが多かった。どのような話題でもきちんと意見を述べられるようになることが今後の課題である。
- ・私は4月に比べて話す力は伸びたと思います。なぜならば、話している途中に次々と単語が頭の中に出てきたり、関係代名詞を使った会話をもできるようになったからです。間違えることは恥ずかしいことではないと思うようになりました。
- ・4月に比べ私の英語で話す力は向上したと思います。後期も継続したことによって自分の言いたい事が以前よりもスラスラと出てきました。
- ・伝えたいのに、分からない単語があるとすぐに辞書で調べていたが、辞書は使わないようにしようと思い、わからない単語でも違う言い方にして話す努力をしていたので向上したと思います。しかし、自分の理想の力まではまだとどいてないので、これからも英語を話す機会を設けて頑張っていきたいです。
- ・最近、以前通っていた英会話教室に顔を出す機会があり、そこで向上したと思うきっかけがありました。自分は大学で授業を受けていて、その感覚に慣れてしまったので自分自身の変化に気づけませんでした。しかし、その教室の先生と話した際に、以前はこんなにスムーズに話せなかったと実感できました。会話の中でのちょっとした反応が自然と出来たことで、少しだけ自分の英語に自信がついた気がしました。昔の環境に一度戻る事で、自分の変化に気づくことが出来たのでとても嬉しかったです。
- ・大幅に向上したとは自信を持ってはいえませんが、多くのレッスンで無料テキストを利用したことで、語彙の幅は増えたとし、繰り返し同じ文章を話すことで相手に対する反応や返事が早くなったと思います。
- ・大学に入学するまで、英語を学んできましたが、その知識を上手く表現することが出来ません

でした。ですが、大学でさらに文法や、発音、多くの単語、英語のコミュニケーションを学び、人と話す力が身に付いたと思います。

質問4．英語学習の方法としてこのオンラインオンライン英語学習プログラムについてどう思いますか？

- ・とても良い方法だと思う。毎日たった25分だけでも英語を話す機会を設けることで苦手意識を捨てることはもちろん自分の弱点なども見つけることができ、今後の学習にも役立てていける、とても良い方法だと思う。
- ・私は良い方法だと思います。学校でもネイティブの先生と話す機会はありますが、必ずしも毎日というわけではありません。また、年齢も性別も生まれも育ちも違う人と話すことはとても新鮮で刺激をうけることができるからです。
- ・英語学習の方法として良い方法だと思います。実際にフィリピン人の講師と話すことによって正しい英語の発音や様々な会話の中で新しい表現の仕方を学ぶことができ、毎日コツコツ続けることで力がつくと思いました。
- ・現地の人とじかに触れ合うことでより自然な発音にも慣れることができるし、余談で文化などにも触れることができるのも良いと思います。何より英語をより意識し、向上心につながっていきました。
- ・いつでも出来るのでとても良いと思います。また外国の方と話すことへの恐怖心や不安な気持ちが薄れていったので良かったです。
- ・私は、良い方法だと思います。オンラインなので、自分が好きなタイミングで英会話レッスンを受けることが出来、自分のスケジュールとも両立して続けることが出来ます。価格も自分のバイト代で補える金額であり、TOEIC などにも対応しているので、自分に沿った学習が出来ます。また講師の方も様々で、仲良くなった講師の方とはお互いの趣味について話す事も、時にはフィリピンでの生活について話してもらうこともあります。ここで挙げたこと以外にも、様々なメリットがあると思います。
- ・授業以外で英語を使って1対1で会話することは日常ではそう多くないので、会話の練習としていい方法だと思います。また、自分が学習したい分野のテキストを選択できるので意欲的に取り組めると思いました。
- ・私はこのプログラムを通じて、英語を話す楽しさや、相手に自分の意見を伝える難しさ、他国の文化、価値観、他にも多くの事を学ぶことが出来ました。オンライン英会話レッスンの機会をもらっていなかったら、私は今もなお、英語を話す自信がなく、英語力も入学当初と変わらないままだったと思います。ですから、このオンライン英会話レッスンは英語を話す自信を与えてくれる素晴らしい方法だと思います。

質問5 . 全体としてこのオンライン英語学習プログラムについてどう思いますか？自由に感想を書いてください。

- ・私はレッスンを受けて本当によかったと心底思う。話すことはもちろん、文化交流もでき貴重な経験ができた。楽しいレッスンばかりではなかったが間違えなく自分の力になった。自分の英語学習の意欲に火をつけるきっかけになった。まだまだ英語力を伸ばすために様々な努力をしていきたいと思う。
- ・私はレッスンを受けてよかったと思います。私はオンライン英会話を受講して、まず、会話力をつけることができました。自分の好きな教材、話すトピックを選ぶことができるので話したいことを話すことができました。次に、リスニング力をつけることが少しはできたと思います。私は高校のときから、機械から聞こえてくる英語を聞き取ることが苦手でした。それは今でも変わりませんが、電話越しに聞こえてくる英語を聞き取っていくことで苦手意識を少しなくすることができました。最後に自信をつけることができました。むしろ間違った時の方が納得することができました。それは英語を話すときだけではなく、普通の授業の中でも間違いをすることは恥ずかしくないと思うようになりました。もしも私が教師になったらこの経験を生かして子供たちに間違えることの良さを教えていきたいです。
- ・日本にいると外国人と話す機会がなかなかないので耳も英語に慣れていなかったのですが、毎日続けることによって話すことにも聞くことにも慣れてきました。話す相手は外国人なので正しい発音を丁寧に教えてくれたり、聞き取れなかったときはゆっくり分かりやすいように話してくれたりしてくれるのでとても良かったと思います。また、たとえ間違っても優しく教えてくれるので理解しやすかったです。
- ・毎日違う先生と話していたのに、みんな良い先生で質問には丁寧に答えてくれるから、安心してすることができました。間違えた所は、指摘するだけでなくしっかり理解するまで例文をだしてくれたり、説明してくれたのでより理解を深めることができました。
- ・私は以前英会話クラスに通っていましたが、日本人から英会話レッスンを受けることと、外国人から英会話レッスンを受けることは全く別のものなのだと感じました。日本語が通じないので、どうやったら理解してもらえるのか、どう言い換えたら相手に伝わるのかを毎時間考えながらレッスンを受けていました。考えながら話す事が、これほど大変だと思ったのはこのプログラムを体験して2、3ヶ月経ってからで、時にはきついと思う事もありました。それでも、自分の言いたいことが相手に伝わると嬉しかったですし、毎回辞書を使ったり写真を見せて説明したり、試行錯誤してレッスンを受けることも楽しかったです。
- ・あまりフィリピンの方と関わる機会がないので、このレッスンで英語学習だけでなくフィリピンの文化についても話を聞くことができお互いの国について情報交換できる所もいいと思いました。
- ・このレッスンは様々な教材が用意されておりそれを用いて受講しますが、その教材に書かれて

いることから発展してさらに相手の文化まで知ることができます。また自己紹介で趣味などが合うととても充実した楽しい25分になります。毎日新しい発見があり、学ぶことも数多くあるので、また受講したいと思っています。

- ・ 普段の日常で一日にほんの数分間、英会話をする時間を設けることで、英語を話すことの抵抗感がなくなり、楽しみが生まれてくるので、とても良い勉強法だと思います。また、毎日の積み重ねが自分の力になっていくのだと、今回改めて感じました。レッスンで学んだことをこれからの自分の学習、そして大学生生活に生かしていきたいです。

7. 外部テストの関連

学生の自己評価の結果は概ね良好であったが、では実際に彼女たちの英語でのコミュニケーション力は向上したのであろうか。ここでは本科が導入している外部の英語テストのスコアを基にこの問題を検証していく。しかし、オンライン英語学習プログラムのみが学生の英語コミュニケーション力向上にどの程度効果があったかを正確に測る事は不可能である。1年前期には英語の4技能の向上を目的とした必修科目 English Seminar I (週2コマ)と English Communication I (週1コマ)が開講され、さらに選択科目として文法や発音等の科目も開講されている。こうした科目での学習も英語力向上に効果があるはずである。ここでは学生の英語学習の成果を測るために導入している2つの外部テストの結果を示し、このプログラムの教育効果を報告する。

(1) CASEC (Computerized Assessment System for English Communication) テスト²⁾

2011(平成22)年度入学生から2014(平成26)年度入学生まで CASEC テストを導入している。このテストを入学直後の5月と翌年1月に実施し、学生の英語コミュニケーション能力の伸びを測り、1年次の英語教育の成果を検証している。2011(平成23)年度から2014(平成26)年度までの4年間の入学生のテスト結果を表4に示す。

表4からも分かるようにオンライン英語学習プログラムを導入した新課程の2013(平成25)年度生と2014(平成26)年度生の5月テストから1月テストへの点数の伸びがそれ以前の入学生の伸びを大きく上回っている。これは部分的にはこのプログラムの教育効果と考えられる。

CASEC は実施方法が簡易で、手軽に導入できるが、Speaking と Writing のパートがないので4

表4 2011年度から2014年度までの入学生の CASEC テスト結果

入学年度	受験者数	5月テストの平均点	1月テストの平均点	5月テストと1月テストの差
2014 (H26)	34	480	509	+ 29
2013 (H25)	34	484	516	+ 36
2012 (H24)	36	500	494	- 6
2011 (H23)	36	458	471	+ 13

* 1000点満点

技能の能力を測ることが出来難い。そこで2015年度からは4技能を総合的に測ることができる Cambridge English Test³の導入に踏み切った。次にその結果を基にオンライン英語プログラムの効果について検証する。

(2) Cambridge English Test

2014(平成26)年度入学生から CASEC と併用して Cambridge English Test を導入している。このテストには試験官との英語面接が含まれ、学生の英語コミュニケーション力をより総合的に測ることができると考えられるからである。このテストの KET (Key English Test) レベルを入学直後の5月と半年後の11月に実施した。その結果を表5に示す。

表5 2014年度・2015年度の入学生の Cambridge English Test (KET) 結果

		5月テスト	11月テスト
2014年度	平均点	65 / 100	73 / 100
	5月テストと11月テストの平均点の差	+ 8	
2015年度	平均点	65 / 100	71 / 100
	5月テストと11月テストの平均点の差	+ 6	

表5から分かるように2014(平成26)年度生も2015年度生も5月テストから11月テストへの全体の平均点が伸びていることから伺えるように学生の英語コミュニケーション力の向上が見て取れる。この結果にオンライン英語学習プログラムがどの程度貢献したのかははっきりしないので、次にオンライン英会話の受講率とKETのスコアとの関連を検討する。

(3) 受講率と Cambridge English Test (KET) スコアとの関連

2014年度生と2015年度生のオンライン英語学習プログラムの5月から7月までの平均受講率と11月の Cambridge English Test (KET) のスコアとの相関係数は $r = .331$ であった。つまり、受講率とスコアの間には極めて緩やかな正の相関があり、受講率が高い学生ほど Cambridge English Test (KET) のスコアが良い傾向が若干見られた。

次に2014年度生と2015年度生を受講率上位グループ31名(受講率30%以上)と下位グループ31名(受講率30%以下)に分け、2グループ間の11月のテストの平均値を算出した。その結果、上位グループの平均点は73.52、下位グループのそれは70.94で上位グループの方が高得点であった。この平均点の差に統計的な有意差があるかどうか検討するために t 検定を行ったが、 $p = .23$ であり、有意差は確認できなかった。

有意差は確認できなかったが、見かけ上の差はある。これは母集団の数が少ない事も関係しているかもしれない。今後も継続的に受講率とテストスコアの関係を検証していく必要がある。

8. まとめと今後の課題

受講率の伸び悩みはあるものの、アンケート調査の結果を見る限り、3年間のオンライン英語学習プログラムはかなりの程度、学生の英語学習意欲向上に貢献していると推察することができる。しかしオンラインプログラムのみが学生の英語でのコミュニケーション力向上にどの程度寄与したかを外部テストのスコアのみから正確に測る事は不可能である。このオンライン英会話は英語情報学科の重要な教育プログラムと位置付けているが、本科全体の英語教育の一部である。入学当初と半年後の Cambridge English Test のスコアの平均点の伸びは本科全体の英語教育の成果と考えるべきである。

最後に今後、このオンラインプログラムをより効果的に利用していくためには克服していくべき課題として次の3点を指摘する。

(1) 受講率を向上させるための工夫

第1に、受講率をどのように向上させていくかである。前述したように年を追うごとに一部の熱心な学生と多くの不熱心な学生という二極化現象が顕著になってきている。特に不熱心な学生の学習意欲を向上させていくにはそれなりの工夫が必要である。現在、受講状況は English Communication I の成績評価の10%にカウントしているが、その方法の改善、授業内容との関連付けの強化などが取り合えず考えられるが、学生の自発的取り組みを促していく方法を検討し、実行して必要が急務である。

(2) 英語学習意欲が向上したかどうかの検証

次にこのプログラム導入によって学生の英語への学習意欲が向上したかどうかを客観的に検証する必要がある。確かにアンケート調査の結果からは向上したと思われるが、別な方法で検証し、さらに客観性を高めていく必要がある。

(3) 英語力が向上したかどうかの検証

繰り返すがこのオンラインプログラムのみが学生の英語コミュニケーション力向上にどの程度寄与したかを外部テストのスコアのみから正確に測る事は不可能である。しかしある程度の効果を外部テストのスコアから間接的に測る事は可能と考える。今後、オンライン英語学習プログラムが英語力向上にどの程度、効果的なのかについて客観的なアプローチで検証していく必要がある。

注

¹⁾ レアジョブ

インターネット通話ソフト(スカイプ)を利用してマンツーマンの英会話レッスンを提供している企業。2007

年10月設立。http://rarejob.com/

²⁾ CASEC (Computerized Assessment System for English Communication)

公益財団法人日本英語検定協会が開発し、インターネット上で受験できる英語コミュニケーション能力判定テスト。http://casec.evidus.com/

³⁾ Cambridge English Test

1858年にイギリスのケンブリッジ大学によって設立された英語検定試験で、言語評価のフィールドにおいて世界をリードするエキスパートが研究・開発している。日本ではまだあまり知名度が高くないが、ヨーロッパを中心に圧倒的な権威があり、約130カ国で年間300万人が受験している。また、世界中で10,000を超える企業・学校・政府等の団体が英語力を証明する試験として評価されているので、このケンブリッジ英検を取得することによって大学・大学院入学、就職・昇格を有利に導く。難易度別に5レベルの試験が準備され、本科は初級レベルのKET (Key English Test) を採用している。http://www.cambridgeenglish.org

参考文献

姫野克也 (2013) 『オンライン英会話の教科書』 国際語学社 .

(2016年10月17日 受理)